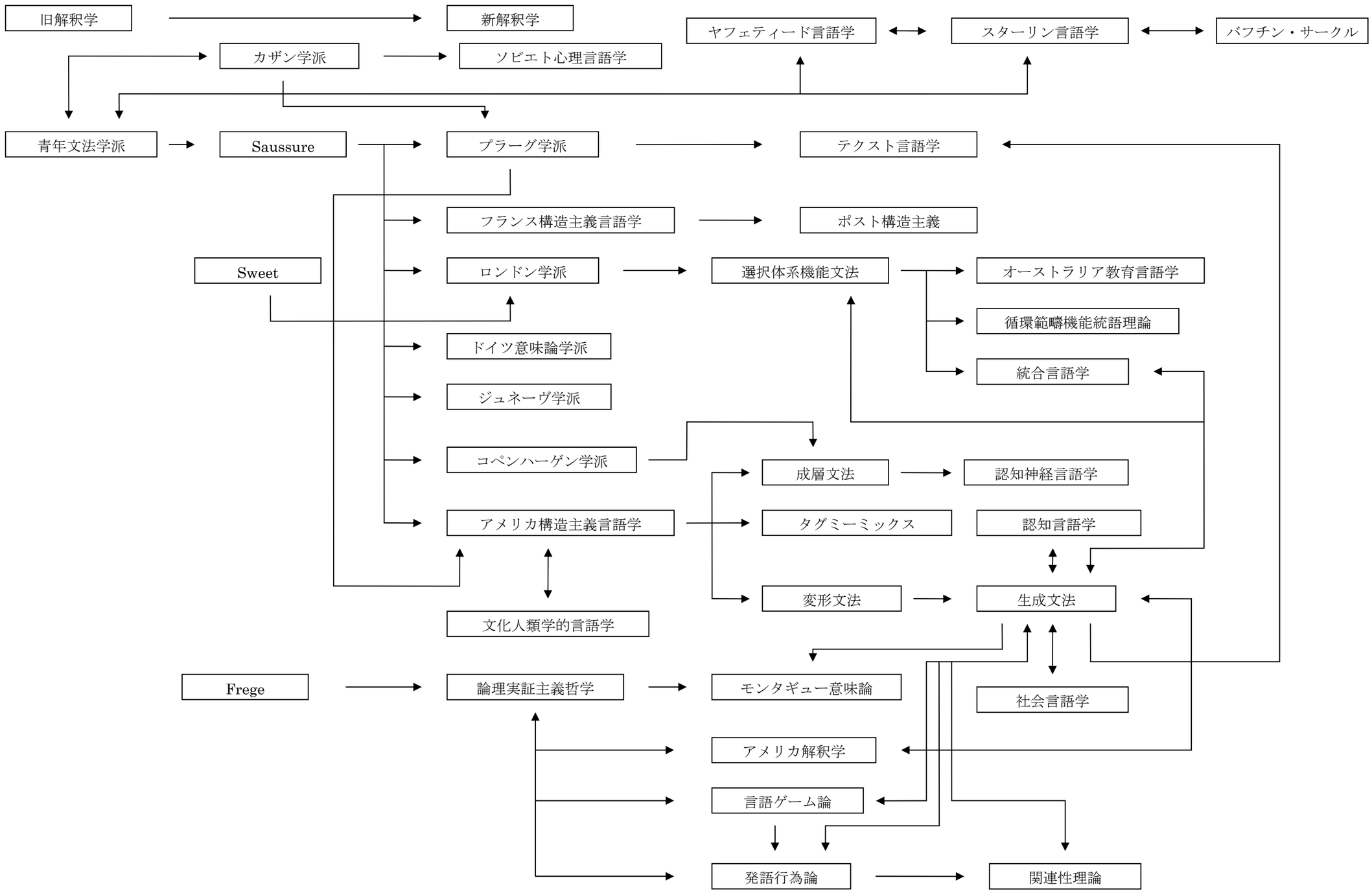
20世紀の主な言語論の体系の略図

片方向の矢印は影響関係を表しています（当然反論も含まれているわけですが…）。双方向のマークは反論がかなり露骨な場合に用いています。矢印が交差している場合（ただし、アメリカ構造主義言語学の部分は除く）は二つの矢印はねじれの位置にあると判断してください。この図は今まで勉強した範囲で書いていますので、これから勉強していく中で間違いだったと判明する部分も含まれていると思います。徐々に、より正確なものにしていきたいと思います。

下の図に出てくる学派名と代表的人物一覧

学派（言語論）名	代表的人物
アメリカ解釈学	Davidson
アメリカ構造主義言語学	Bloomfield
オーストラリア教育言語学	Halliday
カザン学派	Baudouin de Courtenay
関連性理論	Sperber, Wilson
旧解釈学	Schleiermacher, Dilthey
言語ゲーム論	Wittgenstein（後期）
コペンハーゲン学派（言理学）	Hjelmslev
社会言語学	Hymes
ジュネーヴ学派	Bally, Sechehaye, Frei, Meillet
循環範疇機能統語理論	Kuno
新解釈学	Heideggar, Gadmar
神経認知言語学	Lamb
スターリン言語学	Stalin
生成文法	Chomsky
成層文法	Lamb
青年文法学派	Brugmann, Paul
選択体系機能文法	Halliday
ソビエト心理言語学	Vygotsky, Leontiev
タグミーミックス	Pike
テキスト言語学	de Beaugrande, Schmidt
ドイツ意味論学派	Weisgerber
統合言語学	R. Harris
発語行為論（日常言語学派）	Austin, Searle, Grice
バフチン・サークル	Bakhtin, Volosinov
プラーグ学派	Matthesius, Trubetzkoy, Karcevskij, Bühler, Jakobson
文化人類学的言語学	Sapir

フランス構造主義言語学（パリ学派）	Benveniste, Todorov, Barthes
変形文法	Z. Harris
ポスト構造主義	Derrida, Barthes, Kristeva
認知言語学	Lakoff, Talmy
モンタギュー意味論	Montague
ヤフェティード言語学	Marr, メシチャニノフ
ロンドン学派	Malinowski, Firth,
論理実証主義哲学	Russel, Wittgenstein（前期）


旧解釈学
新解釈学
ヤフェティード言語学
スターリン言語学
バフチン・サークル
カザン学派
ソビエト心理言語学
青年文法学派
Saussure
プラーグ学派
テクスト言語学
フランス構造主義言語学
ポスト構造主義
Sweet
ロンドン学派
選択体系機能文法
オーストラリア教育言語学
循環範疇機能統語理論
統合言語学
ドイツ意味論学派
ジュネーヴ学派
コペンハーゲン学派
成層文法
認知神経言語学
アメリカ構造主義言語学
タグミーミックス
認知言語学
変形文法
生成文法
文化人類学的言語学
Frege
論理実証主義哲学
モンタギュー意味論
社会言語学
アメリカ解釈学
言語ゲーム論
発語行為論
関連性理論